

研究分野のキーワード：授業研究・評価論、国語科教育学、言語技術教育、情報（メディア）
リテラシー教育、21世紀型リテラシー、日本近現代文学研究

研究紹介

皆さんは小中高校と、最も多くの時間を使って国語の授業を受けてきていますが、国語は好き（得意）ですか？、言葉っておもしろい、楽しい…と思えるのは学校だけとは限りません。小さい頃の祖母から聞いた昔話や、お母さんからの絵本の読み聞かせという方もいるでしょう。国語科授業で学ぶ民話や伝記、物語や小説・詩歌、古典は好きでも「授業（の方法や教え方…）」は好きになれなかったとか、逆に先生の教え方やお人柄で「言葉を通じていろいろなことを考える、伝えることのおもしろさや深い魅力」等を知ったという方もいるかもしれません。

私は高校で10年間先生をしてから愛知教育大学国語科教育講座（20年）へ、そして今、教職大学院で教えています。ずっと変わらず願っていることは、児童生徒が「言葉を通じて（言葉にならない深い部分も含め）生きる喜びや誇り、困難に向き合って生きる勇気を身に付けてほしい」、ということです。そのためには先生方は何をどう教えればいいのか。教えたことが本当に児童生徒達の学力になっているか、学力や知識がその人の生き方や人間的な深い部分とどう結びついているか、いないか…。そういうことを研究しています。

言葉にできない深層も含め、「言葉を考える」ことは自分や世界（他者）と向き合うことであり、私達はなぜここにいるのか、どこに行くのか、私であることの根拠は何か等、私達個々の存在証明（アイデンティティ）・伝統や文化の意味等を考えることと私は思っています。

1) 言葉の魅力と深さ—国語科を中核にした授業研究論・評価論（カリキュラム開発）—

私は国語科、「言葉の力」を通して児童生徒が考え判断し、表現する方法やどうなればよかったことになるのかという評価・到達目標の在り方等を研究しています。実際に小中・高校の先生方が授業を見直し改善できるような指導論・年間計画をどう創ればいいのか等を提案してきました。固い言い方ですが言語力（国語科）・コミュニケーション（リテラシー）論を中核にした授業研究論・評価論、教材開発・カリキュラム開発論ということになります。

2) 真実の探究と論理的思考力、批評力—情報（メディア）リテラシー教育—

世界的な学力調査でわかったことの一つは、日本の児童生徒の最も弱い点は論理的に書いてまとめる表現力と評価力（批判的思考）と言われています。自分で課題を見つけ解決できる「思考力・判断力・表現力等の学力」（活用）をどう指導すればいいのかを研究中です。

3) 新しい学力観を軸にした授業論—「21世紀にふさわしい学び」の授業・教材開発—

4) 全教科・活動を貫く「言語活動（言語力）・〔伝統的な言語文化と国語に関する事項〕

新しい学力観を踏まえた「21世紀にふさわしい学び（21世紀型リテラシー）」や「習得・活用（探究）」の学びの具体的な内容・教材化活用の提案、言語力・言語活動による授業構想、古文・漢文・故事成語・諺等を生かした「伝統的な言語文化」教材・授業開発等です。